

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

特別会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	介護人材確保・育成支援事業			シート番号	A 一般事務事業
担当部署名	健康福祉	局	長寿社会	部	地域包括ケア推進 課
				評価責任者(課長名)	阿加井

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	無
	2	事業開始年度	平成 24 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	介護保険法			
	4	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30(2018)~32(2020)年度)			
5	事業実施の経緯	進みゆく高齢社会を担う良質な介護人材の確保のため、堺市高齢者福祉計画・介護保険事業計画において重点取組項目として位置づけ、平成24年度から事業を開始した。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	市内介護事業者			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	更なる高齢化を見据えつつ、①介護事業者が自立的に職場環境改善及び人材の育成に取組み業務の効率化を図れるよう支援する、②高齢者の尊厳の保持と自立生活をめざすために介護サービスの質の向上を図る、③これらの取組みにより福祉と介護の仕事の魅力を高め、それらを発信し、人材の確保につとめることを目的として実施する。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	①さかい福祉と介護の実践発表会の開催 高齢者福祉施設職員による実践活動や研究活動等の発表を通し、市内の高齢者福祉に関わる職員がともに学び合い、日々の業務の活力とすること、また、福祉と介護の魅力を社会に発信することを目的にて開催。就職相談会も同時開催。 ②研修の実施 新任期、中堅期、管理期等の課題に応じた研修を行う。研修内容については、介護技術の向上や高齢者の自立支援に向けたもの、介護現場のリーダー育成、外国人材の活用等とする。 ③働きやすく魅力あふれる介護事業所等表彰の実施 介護人材の確保及び育成に関して、労働環境の改善や業務効率の向上等についての優れた取組を行っている事業所及び職員を表彰する。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 株式会社 TRAPE				

Ⅲ. 投入量

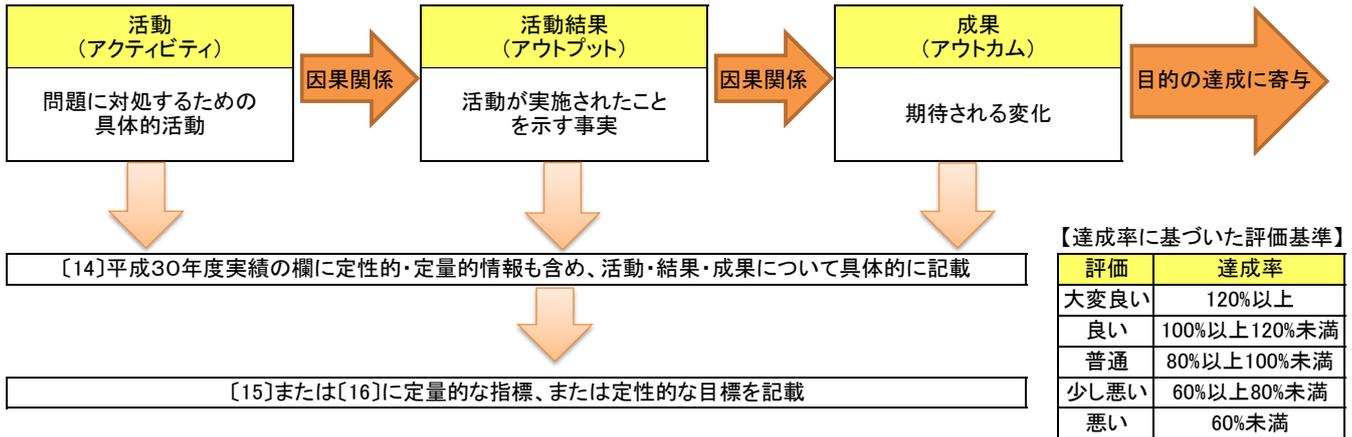
項目		単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	11 事業費 (a)	千円	5,381	5,431	5,358	5,341	
	主な事業費内訳	委託料等	千円	5,381	5,431	5,358	5,341
			千円				
			千円				
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円	3,147	3,177	3,095	3,085
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
市債		千円					
	その他(第1号被保険者保険料)	千円	1,183	1,195	1,232	1,228	
	一般財源	千円	1,051	1,059	1,031	1,028	
12	人件費 (b)	千円	6,400	8,880	10,520	10,400	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	11,781	14,311	15,878	15,741	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	介護人材確保・育成支援事業	シート番号	11-102
-------	---------------	-------	--------

≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

ロジックモデルの考え方



事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	<p>・平成30年度からの取組として、高齢者福祉施設職員による実践活動や研究活動等の発表を通し、市内の高齢者福祉に関わる職員がともに学び合い、日々の業務の活力とすること、また、福祉と介護の魅力を社会に発信することを目的とした「さかい福祉と介護の実践発表会」を開催。合わせて就職相談会も開催。現場で働く職員の参加が多く、介護職員の働く意欲の向上につながった。</p> <p>・管理期、中堅期、現場職員の3つの段階に応じた課題に対応する研修会を開催。現場で働く人自身が、ワークショップにて現場職員向けの研修を企画し、実施した研修が特に好評であった。</p> <p>・介護人材の確保及び育成に関して、労働環境の改善や業務効率の向上等についてすぐれた取組を行っている事業所と職員を表彰することにより、その取組を広く市民に周知するとともに、他の事業所に波及させ、介護に対するイメージの向上、介護人材の確保及び定着につなげることを目的に「働きやすく魅力あふれる介護事業所等表彰」を実施。6事業所及び13人の表彰が決まった。</p>						
	15	研修参加事業者数	事業所	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				目標値	180	150	150	120
				実績値	165	99	119	
				達成率	92%	66%	79%	
				評価	普通	少し悪い	少し悪い	
			算出方法・設定根拠など					
			研修参加、さかい福祉と介護の実践発表会での発表、表彰応募事業所の参加のべ数					
	16	さかい福祉と介護の実践発表会参加者数	人	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				目標値		150	250	
			実績値		227			
			達成率		151%			
			評価		大変良い			
		算出方法・設定根拠など						
		参加者数						

業績の分析

17	<p style="text-align: center;">目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)</p> <p>平成30年度、新たに始めた福祉と介護の実践発表会について、目標とした参加者数を上回り、参加者の満足度も高く、事業は有効であった。学生など、現在介護の仕事をしていない方の参加を増やすために、教育機関との連携などを進めていく必要がある。研修についても、参加者が増加しており、一定の効果は認められる。</p>
----	---

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。